

令和3年5月13日

## 令和2年度の自己点検結果

自己評価委員会

令和2年5月1日における在 student 数は、学部生 1,167 人（収容定員充足率 85.8%）、大学院生 9 人（同 30.0%）、助産学専攻科生 7 人（同 70.0%）で合計 1,183 人であった。各学科の在 student 数は、経営学科 164 人（同 82.0%）、福祉学科 103 人（同 42.9%）、こども学科 179 人（同 89.5%）、健康スポーツ科学科 389 人（同 97.3%）、看護学科 332 人（同 103.8%）であった。

令和2年度学部卒業生は、281 人で、経営学科 35 人、福祉学科 25 人、こども学科 43 人、健康スポーツ科学科 100 人、看護学科 78 人であった。また、大学院生 4 人、助産学専攻生 6 人が修了した。

学部卒業生 281 人中 256 人が就職希望者であり、255 人の就職が内定して就職率は 99.6% で、実就職率は 95.1% であった。

令和2年度に実施した入試については、令和3年度の入学者数は 293 人（入学定員充足率 86.2%）であった。各学科の入学者数は、経営学科 50 人（同 100.0%）、福祉学科 29 人（同 48.3%）、こども学科 36 人（同 72.0%）、健康スポーツ科学科 94 人（同 94.0%）、看護学科 84 人（同 105.0%）であった。

自己評価委員会において、3つのポリシーを機能させるために、その評価を行うアセスメント・ポリシーを策定し、令和2年度の評価を行った。評価は、大学レベル、学科レベル、科目レベルである。今後、評価結果を公開するとともに経年変化をみながら、PDCA サイクルを機能させる。

アセスメント・ポリシーを機能させるために大学教育センターの IR 部門を中心に、大学レベルの評価のためのアンケート調査、アセスメントテストなどを実施するとともに、大学全体の教育情報、教職情報、各学科の教育データなどをまとめた IR データ集を作成した。

令和3年度の日本高等教育評価機構の認証評価受審のための自己点検評価書の素案を、認証評価実施委員会を中心に作成した。

ICT（情報通信技術）の活用を推進し、新型コロナウイルス感染拡大の中、円滑に遠隔授業への対応ができた。年次進行していたパソコンの必携化は4年次生まで完了し、学生総合支援システム「ゼルコバ」と学修支援システム「セレッソ」の活用が進んだ。